

<今回>223回目 2017年11月20(月)15時~18時 602号室  
読書は9冊目「邪馬壹国の証明」 p17卑弥呼の年齢その一 より

<前回>222回目(17-11-6) 出席者11名  
資料(17-11-06-1)前回のまとめ(清水)

## A 報告

こもごもどこか行った報告をした

①清水、遊行寺宝物館の江の島神社縁起絵巻を見てきた(土日月開館、500円、12月18日まで)。富川さんが「失われた倭国年号」のコラム欄に書かれた貴楽元年の年号が確認できた。岩本院本(江の島在)巻2、江の島神社本巻2のどちらのとも同様なことが絵と同じく文字も書かれていて、どちらが先か同時かわからない。巻5までである。巻3の文武3年(699年)には当然年号はないが、九州年号もない。700年まで九州王朝が名目的に年号を持っていたならあってもよさそうな物だが、あるとすれば大化だろう。富川さんは真名本(絵のない)に聖徳年号を見つけたそうである。

②下中村さんは友人と老岐対馬釜山に行った。カササギは唐津城にいた。老岐の古代史跡を回ることはできたが対馬は道に迷い、「阿麻氏留神社」の額を見ただけだったようだ。釜山は福泉博物館に行った。新しくよかったという。

③高山氏は綾瀬の環濠集落(径は50m 内外)の現地説明会にいった。同時期に存在したのは数基という。伊場土器がでて東海との共通性が指摘された。この周辺に墓は出ていないという。

④富川さんは奈良の正倉院展に行き、とても近くでは見られない状態だった。青い鉛ガラスの器が目を引いた。

懇親会8名 津多屋11823円(5・1500+3・14000) -123円

## B 資料 なし

C 読書 「邪馬壹国の証明」のp17卑弥呼の年齢その1 から。

- 1)彫刻家の富永朝堂氏は九州大学にあった弥生の人骨を何十体も参照し、卑弥呼の像を作成した。その像は古田夫妻が筑紫の女王と噂し合った司法界の方にも似ていたのは偶然かという。
- 2)(曹)丕(魏の文帝)の業を継ぐや年已に長大(呉志7)の字句がある。この時34歳、「長大」の字句は文例がある。
- 3)朝鮮古代の歴史書、三国史記(12世紀成立)に阿達羅尼師今20年5月(173年)倭女王卑弥呼遣使来聘す。とある。これは独自史料である。だが年代設定が後漢書の桓靈の間(146~189年)の表現に惑わされている。
- 4)後漢書には桓靈の間大いに乱れ更更相攻伐し、歴年主無し、一女子有、名を卑弥呼という。という文章がある。しかしこれは范曄(後漢書の著者)の誤読だ。魏志倭人伝では 其の国(倭国)本(もと)亦(また)男子を以て王となし、住まること7, 80年、倭国乱れ相攻伐すること歴年 の語法であるから7, 80年(2倍年暦なら3, 40年)は男子の王であったが、歴年(数年)相攻伐と読むべきを、范曄は7, 80年倭国乱れ相攻伐すると読み、7, 80年戦乱状態にあったとし、「桓靈の間」の語を創出した。倭人伝にはない語である。これを日本古代史学会と考古学会は「倭国大乱」と常用している。もちろん卑弥呼以前の2, 3世紀をさす。
- 5)これを三国史記は拠り所にして年次を阿達羅尼師今20年(173年)に設定した。
- 6)倭人伝に出現する単語、成語は「三國志」全体の用例に従って解する王道を守る事から演繹されなければならない。

次回日程 17-12-4(月) 15時から18時 601会議室  
12-25(月) 15時から18時 602会議室  
18-1-8(月) 16時から18時 601会議室

1-29(月) 15時から18時 603会議室